

## 研究・調査報告書

| 分類番号  | 報告書番号  | 担当                  |
|---|--------|---------------------|
| A-133   | 16-057 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| <b>題名 (原題/訳)</b>  |        |                     |
| Global burden of diseases, injuries, and risk factors for young people's health during 1990-2013: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2013.<br>1990-2013年における世界の若年層の疾病, 死因, リスク要因について (Global Burden of Disease Study 2013)  |        |                     |
| <b>執筆者</b>  |        |                     |
| Mokdad AH, Forouzanfar MH, Daoud F, Mokdad AA, El Bcheraoui C, Moradi-Lakeh M, et al.   |        |                     |
| <b>掲載誌</b>  |        |                     |
| Lancet. 2016 Jun 11;387(10036):2383-401. doi: 10.1016/S0140-6736(16)00648-6.  |        |                     |
| <b>キーワード</b>  |        | <b>PMID</b>         |
| 若年者、死亡、DALYs、CRA  |        | 27174305            |
| <b>要 旨</b>  |        |                     |
| <b>目的:</b><br>若年層の健康状況は世界の発展における重要な問題である。若年層の健康状態のパターンの変化は、効果的な戦略はまだ整っていないとしても、経済発展や将来の健康への影響は確実にある。そこで、我々は死亡、障害、事故、健康リスク要因のデータに基づき、1990年から2013年までの10-24歳の若年者における過去と現在の疾病状況の調査を行った。   |        |                     |
| <b>方法:</b><br>The Global Burden of Disease Study 2013 (GBD 2013)は、188か国、1990-2013年の306の疾患・事故、1233の後遺症、79のリスク要因について毎年調査を行った。我々は comparative risk assessment (CRA) の手法により、ある年の疾病が過去のリスク要因への曝露に関連しているかを解析した。過去に反事実の曝露を受けた場合に起こったであろう結果と観察された結果を比較することで、寄与負担を推定した。同様の方法を1990年から2013年までの過去についても応用した。負担による disability-adjusted life-years (DALYs) について、年次増加の分位点ごとにクロス集計表により示した。要因については GBD 2013 階層、疾病と事故は306個を4つの水準としてまとめた。レベル1は3つの広いカテゴリーからなり、レベル2は21カテゴリー、レベル3は163カテゴリー、レベル4は254カテゴリーであった。  |        |                     |
| <b>結果:</b><br>2013年における主要な死亡要因は、10-14歳では HIV/AIDS、道路事故、溺死 であり(25.2%)、15-19歳と20-24歳では交通機関事故であった(各々14.2%、15.6%)。母体障害は20-24歳女性における主要な死亡要因であり(17.1%)、15-19歳においても上位であった(11.5%)。危険な性行為は、DALYsにおけるリスク要因として、1990年から2013年の間に、13位から2位に上がった。20-24歳の若者において、アルコール飲用は DALYs のリスク要因の最も高い要因であり(全体7.0%、男性10.5%、女性2.7%)、薬物服用は全体で2.7%(男性3.3%、女性2.0%)であった。リスク要因の寄与は国内・国外で大きなバラツキがみられた。例えば、20-24歳においては、薬物服用がカタールで最も高く、4.9%のDALYsであり、次いでアラブ首長国連邦で4.8%であった一方で、ロシアではアルコール飲用が最も高く21.4% DALYsであり、次いでベラルーシでは21.0%であった。また、20-24歳のアルコール飲用については、中国国内では全体で9.0%(香港の4.2%から上海の11.3%)、メキシコでは全体で11.6%(アグアスカリエンテスの10.1%からチワワの14.9%)とばらつきがみられた。10-24歳においては、アルコール飲酒・薬物服用ともに、毎年1.0%以上の負担増がみられ、DALYsの3.1%以上にあたる。 |        |                     |
| <b>結論:</b><br>我々は、健康を促進し、将来の疾病やリスクの負担を減らすことが若者にとって重要であることを示した。更に、国間・国内の疾病負担に関する大きなバラツキのため、この世代における世界的な健康促進は地域の特性を考慮しない場合失敗するおそれがあることが示唆された。最後に、適切に若年者の健康リスクをとらえ、情報システムを運用するような、経済的・技術的な障壁に打ち勝つ努力が望まれる。  |        |                     |